令和７年度

事　業　報　告　書

（令和７年４月１日から令和８年３月31日まで）

学校法人　黒木学園

○．事業の概要

本学校法人黒木学園の令和７年度における事業の概要は、以下のとおりであります。

◎長野スクールオブビジネス

すべての学科が募集停止となっていますので、在籍者がいません。
令和７年度末を持って閉校となります。

◎専門学校カレッジオブキャリア

自動車整備科が共和に移転し１８年目、生徒は昨年の 70 人より若干減少し 63 人に、ブライダル・ホテル科とデジタルクリエーション科のみで減少傾向です。

令和８年度に向け、入学予定者は 24 人でブライダル・ホテル科、デジタルクリエーション科共に減少し、当年度より若干減少して 54 人の在籍者を予定しています。

◎専門学校長野自動車大学校

自動車整備科が独立移転し開校して１８年目、自動車整備科は１４年目の４年生が在籍して、生徒数が昨年の 100 人から 84 人に減少しました。

令和８年度に向け、入学予定者は昨年より増加の 35 人で、自動車整備科は若干減少して、78 人の在籍者を予定しています。

◎長野ひまわり幼稚園（幼稚園型認定こども園）

新園舎での２１年目を迎え、平成３０年度より幼稚園型認定こども園となり８年目でした。園児数は昨年より減少の 143 人で、他に 25 人の２歳児が在籍しました。

令和８年度入園児は２歳児を含め 50 人強を予定していますが、令和８年度は当年度より若干増加して、180 人弱の園児数を予定しています。

◎認定こども園信濃ひまわり幼稚園（幼保連携型認定こども園）

平成２７年度より幼保連携型認定こども園となり幼稚園と保育園が一部門で１１年目でした。園児数は昨年と同様で、３～５歳児が 147 人で、０～２歳児が 42 人の合計 189 人となりました。

令和８年度入園児は全体で 50 人位を予定し、３歳児は３学級から２学級に減らして５年目、昨年度と同じ 190 人弱を予定しています。

○．財務の概要（令和７年度決算の状況）

令和７年度の予算の執行状況について、その概要を報告いたします。

（１）資金収支計算

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対する、すべての収入・支出の内容を明らかにし、かつ支払資金の収入・支出の顛末を明らかにするものであります。

資金収入合計は、6 億 6,954 万円となり、予算を 17,451 万円上回りました。これは主として雑収入や借入金等収入、その他の収入、補助金収入、受取利息･配当金収入が見込みを上回ったことによりますが､前受金や学生生徒等納付金収入､付随事業･収益事業収入が見込みを下回り、収入増を抑えました。

資金支出は 6 億 4,080 万円となり、予算を 17,450 万円上回りました。これは、経費や借入金等返済支出、その他の支出、人件費支出等が予算を上回り、更に設備関係支出が、急な雨漏りの修繕や土地の購入に伴い増加したことが主要因です。

よって、繰越支払資金は、前年度より 2,874 万円増加して 4 億 0,759 万円となりました。

次に、主な科目について説明いたします。

①　資金収入

学生生徒等納付金収入は 1 億 6,396 万円となりました。授業料、入学金、実習費、施設設備費、基本保育料が主な収入で、学費納入の生徒・園児数は専門学校が 2 校で 147 人、幼稚園が 2 園で 357 人です。(幼稚園は基本保育料となり、保育料の無償化により３歳未満児のみの納付となります。)

手数料収入は 159 万円で、入学検定料収入 116 万円が主な収入であり、専門学校の追再試験料の試験料収入は 38 万円を計上しました。

補助金収入は 4 億 2,220 万円となり、県と市町村の補助金、施設型給付費も予算を上回りました。

付随・収益事業収入は 175 万円で予算を下回り、収益事業収入が 229 万円加わり、雑収入は 1,491 万円で前年より大幅に減少しました。(昨年はみなし退職者の退職金収入が大きかった。)

前受金収入は 9,913 万円となり、新入の専門学校生が減少し進級者も少なく、更に学費の２回分納等で、予算より大幅に下回りました。

その他の収入は、前期末未収入金の収入が 6,964 万円で予算を大幅に上回りました。

②　資金支出

人件費支出は 4 億 2,709 万円となりました。本務・兼務教職員給・退職金等の支出で、教員人件費、職員人件費共に予算を上回り、退職金も増加しました。

経費支出は 1 億 1,257 万円で、各設置学校の教育研究諸活動費や全般に係る経費、学生募集経費、法人に必要な諸経費等となり、予算を大幅に上回りました。

借入金等利息支出は 232 万円で、金利の上昇により予算を上回りました。

借入金等返済支出は 5,608 万円で、計画どおりの返済と短期借入金の返済が行われました。

施設関係支出は建物が 884 万円で予算を上回り、更に土地の購入に伴う手付金として建設仮勘定で 1,763 万円を計上した。設備関係支出も 890 万円で予算を下回りましたが、管理用機器備品として PC の全数入れ替えを実施した。

その他の支出は 3,505 万円で大幅に予算を上回り、前期末未払金と前払金の支払支出が予算を上回りました。

（2）事業活動収支計算

「事業活動収支計算書」は、当該会計年度における事業活動収支の均衡状態とその内容を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示すもので、計算目的に違いはありますけれども、いわば企業会計の損益計算書に当たるものであります。

事業活動収入の教育活動収入は、学生生徒等納付金、手数料、経常費等補助金等の法人に帰属する負債とならない収入で、雑収入が見込みより大幅に上回り、経常費等補助金も上回り、付随事業収入や学生生徒等納付金、手数料が見込みを下回りましたが、予算を 2,865 万円上回り 6 億 0,246 万円となりました。なお、他の収入も含めた事業活動収入計は、参考ですが 6 億 0,527 万円となりました。

一方、事業活動支出の教育活動支出は、教職員の人件費、教育研究活動および法人の運営に必要な諸経費で、5 億 8,687 万円となり、予算を 2,867 万円下回りました。なお、他の支出も含めました事業活動支出計は、参考ですが、5 億 8,919 万円となりました。

当年度決算における基本金組入前収支差額は、1,609 万円の収入超過で予算を上回りました。また、基本金組入額は除却等がありましたが 5,781 万円で予算を大幅に上回り、当年度収支差額は 4,173 万円の支出超過で予算を上回り、翌年度繰越収支差額は増加して△12 億 8,328 万円となりました。

（3）貸借対照表

当年度はカレッジオブキャリアで屋上防水工事のため 715 万円の支出や、職員用 PC の全台入替のため 500 万円程の支出、信濃ひまわり幼稚園の土地取得のため 1,763 万円の支出がありましたが、減価償却や除却により固定資産が 270 万円減少し、流動資産は 1,495 万円減少し、資産合計は 1,765 万円の減少で、12 億 5,677 万円となりました。

一方、役員退職慰労引当金が 8 万円増加し、新たに賞与引当金が 909 万円設けられ、借入金と未払金、前受金、預り金がそれぞれ 2,607 万円と 76 万円、952 万円、520 万円減少して、負債全体で 3,373 万円の減少で、3 億 2,503 万円となりました。

結果、純資産（正味資産）は 1,609 万円増加して、9 億 3,174 万円となりました。